

第2回金谷小学校保護者説明会会議録

1. 日時 平成29年3月23日(木) 19:00開始
2. 会場 金谷コミュニティセンター
3. 教育部参加者
岡根教育長、能城教育部長、今井学校教育課長、鶴岡教育総務課長、竹谷教育センター所長、須藤学校教育課主幹、鈴木教育センター主幹、刈込教育総務課課長補佐、福原教育総務課主任主事
4. 保護者参加者 23名

5. 会議録

進行：鈴木教育センター主幹

発言者	発言内容
能城部長	1 開会の言葉
	2 出席者紹介
岡根教育長	3 教育委員会あいさつ
能城部長	4 天羽中学校校舎改築について説明 天羽中と富津中の校舎建設の検討につきましては、平成14年度におこなわれ、総合的に判断された中、富津中の改築を優先し実施されることとなり、平成19・20年度で富津中学校の改築がおこなわれました。 そういった中、国は、平成7年1月に発生した阪神淡路大震災を受け、小中学校の耐震補強につきましては、平成20年6月に改正された地震防災対策特別措置法により、学校設置者に耐震診断の実施及び結果公表の義務付けがなされ、全ての小中学校の耐震補強を優先することとなり、天羽中学校の改築は先送りされ、市内小中学校の耐震補強工事は、平成25年度をもって全て完了したところでございます。 その翌年、平成26年度に皆さんもご承知のこととは思いますが、財政破綻報道があり、その後市の経営改革を進める中、平成27年8月に出された中期収支見込に、教育環境の改善が急務であることから、やっと今まで先送りされていた天羽中学校の大規模改修、これは現在の校舎を利用して改修を行うものですが、その予算が計上されたところでございます。 天羽中学校が大規模改修とされた経緯につきましては、平成26年に文部科学省から出されたインフラ長寿命化計画により、これまでの建て替え中心から長寿命化への転換による今ある建物を利用したの改修方針に沿ったものでございます。 そのような経緯から天羽中学校につきましては、当初現在の場所で大規模改修を予定しておりましたが、今年度実施いたしました、耐力度調査の結果、耐力度が基準値に達していない、これは大規模改修に適さない危険な状況と判断されたことから、今回、大規模改修ではなく改築、新しく建て替える計画とされたところでございます。

鶴岡課長	<p>天羽中学校校舎の整備計画（案）について、ご説明申し上げます。</p> <p>天羽中学校校舎の整備については、既存敷地内での建て替え、既存校舎の大規模改修、移転新築について検討いたしました。</p> <p>1つ目は、既存の校舎2棟を解体し、現在の敷地内に新たに適正規模の校舎を建築する計画（案）です。</p> <p>この案では、設計から整備完了までの期間を3年間、概算事業費については、15億円程度と試算しました。</p> <p>2つ目は、既存校舎を大規模改修する計画（案）です。</p> <p>事業期間は3年間、概算事業費を12億円程度と試算しました。</p> <p>3つ目は、新たな場所へ移転し、新築する計画（案）です。</p> <p>この案では、移転先地の選定、用地買収、敷地の造成工事や校舎以外に体育館等の建築も必要になりますので、事業期間は7年以上、事業費は24億円以上と試算しました。</p> <p>移転、新築の場合の事業費については、移転する場所によって用地取得費や必要となる道路等インフラ整備などにより、事業費が更に増加することが予想されます。現在の用地内で校舎を整備する場合、説明会で保護者や地域の方からご指摘、ご要望があった道路や排水を併せて整備する必要があると考えています。</p> <p>3つの整備（案）については、事業期間、概算事業費、生徒の学習環境、建築後の維持管理費など総合的に検討した結果、既存校舎の大規模改修（案）が一番安価となりますが、既存校舎の構造躯体が経年劣化により耐久性が低下しているため、大規模改修する案については、望ましい計画と言えないと評価しました。</p> <p>移転、新築（案）については、移転先の選定や用地買収、造成工事、校舎以外に屋内運動場や武道場などの建築等、事業期間や費用が膨大になること、又、関連するインフラ整備が必要になる可能性もあることなどから、実現性が低く、望ましい計画とは言えないと評価しました。</p> <p>改築計画（案）については、既存校舎の大規模改修計画（案）に比べ概算事業費が3億円程度高くなると予想されますが、大規模改修に比べ、建築後の維持管理費の抑制が見込まれること、多様な学習環境に対応する機能も合わせて整備できることなどから、現在の敷地内で新たに適正規模の校舎を建築する（案）が最も望ましく、実現性の高い計画であると評価しました。</p> <p>改築の場合も国の補助金の活用が見込まれますので、少しでも市の持ち出しが少なくなるような事業メニューを検討していきます。</p> <p>改築（案）を進める場合は、平成29年度に基本・実施設計、地質調査を実施し、平成30年度に既存校舎の解体、平成30年度、31年度に改築工事を実施し、平成31年度末完成を目標とした計画になります。又、道路整備については、早期事業化に向け、進めて参ります。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
鈴木主幹	<p>以上で説明が終わりましたが、何か質問やご意見ございますか。</p>
須藤主幹	<p>「アンケート結果及びQ&A」について説明</p>
保護者	<p>6. 質疑</p> <p>土日や夏休みは国道が渋滞している。トイレもない。その場合は電車のお金を出してくれるのか。国道は上下線混んでいる。それが気になる。女の子もいる。トイレ付きのバスにするのか。</p>

今井課長	対応については、どのような状況なのかを把握し、検討していく。個別の計画の中で示していく。
保護者	教育委員会は4校同時に進めようとしているのか。
今井課長	もし、合意形成できなければ延ばすことも考えられる。基本は理解をいただいて進められたらと考えている。
保護者	県議は町に小学校があった方がよいと言っていた。でもしょうがないとも言っていた。習熟度別などはある程度の規模のところはやっていると言っていたがやっているのか。
今井課長	行っている。
保護者	金谷小は全員がリーダーになれる。将来のためになる。30人のリーダーもよい面はある。もう少し考える時間がほしい。アンケート結果を見ると、賛成の人の中にも反対の意見がある。もう少し意見の集約や説明がほしい。
今井課長	30人、40人の中でリーダーを1人育てるという意識で子どもたちを育てていることはない。一定規模のクラスでも一人一人がリーダーになれるよう、グループだったり全体だったり場面を計画的に作っている。
保護者	社会に出たときに同じ年齢同士の活動はあまりない。年の違う人と働くことの方が多い。複式や異年齢がなぜよくないのか。
今井課長	学校は限られた人の中で最大限の効果を出すのが目的であるため、職員も必死にやっている。それは私たちも認めている。複式学級は算数や国語などは教頭が授業に出て3、4年生別々に授業を行っている。3年生で学べないと4年生で困ることがある。複式では3年生は担任が直接教え、4年生は自習をしている。先生がついていないということでは、学習が低下したという報告も受けている。年齢の違う子どもとの活動は、どの学校も取り入れている。学習は少人数では多様な考えが出ない。子ども同士の学び合いで刺激を寄せた方がよい。
保護者	大規模校と小規模校の学力の差はあまりないと言っていたが。
今井課長	学力は点数だけではかれない部分もある。
保護者	金谷小の先生方はよくやっている。認めてほしい。
今井課長	頑張っていることは認めている。
保護者	学校規模を大きくすれば学力が上がるわけではないですね。
今井課長	学習意欲の観点から見れば、3人対1人というケースより人数が多い方が、自分で考える、みんなで考えるということができる。
岡根教育長	より多くの友達と人間関係を作ったり、様々な意見をぶついたり、対話ができた方がよいと思っている。バスの件などの問題があればその工夫、

保護者	<p>条件整備をしっかりとしなければいけないと思う。</p> <p>金谷の子どもたちは自分の意見を言える子が多い。その他大勢が多いところでは自分の意見が言えない子が多かった。だから、少人数の方が意見が言えると自分は思っている。同学年の子どもたちだけで集めればそういう経験ができるのか。本当に廃校にしなければいけないのか。</p>
今井課長	<p>金谷小の子供達は地域で育てていくという意識が高いと思う。関豊小は閉校しても地域で育てていく意識が残っており、続けている。関豊小だけではなく他の地域も登下校がバスになるので、平日に異年齢で遊ぶ時間は減っていくとは思う。</p>
保護者	<p>子ども達の放課後の大事な時間はどこに行くのか。スクールバスで帰ってきてどうやって遊ぶのか。下の子を上の子が見て世話をしている。地域の人も声をかけてくれる。先生以外の地域の人と関わる時間が大切である。統廃合をするなら少人数の学校に行かせたい。富津市に少人数の学校があってもよいのでは。</p>
今井課長	<p>小規模特認校制度というものがある。富岡小、中郷小中、三島小が小規模特認校である。君津は応募がなく、富岡、中郷小でも複式の解消ができていないので、統合を視野に入れ検討中である。今まで成功例がない。登下校は保護者の送迎であり、遠距離になり難しいからだと思う。富津市では小規模特認校は考えていない。</p>
保護者	<p>金谷小の卒業式は感動した。6年生3人の卒業式であった。私は1,200人の小学校だった。ピアノを交互に弾いて歌を歌っていた。金谷小は1人1人が責任を持ってやっていた。少人数だからこそである。贈る言葉も1年生から5年生まで1人1人が堂々といっている。自分のことを認めてもらっているからやれる姿がある。そういう校風がある。マンモス校で育った人を見て涙が出るくらいすばらしい。金谷小の校風はどこにも負けないくらいすばらしいものであると思っている。中学校から多い人数になるのはよいと思う。小学校ではすばらしい教育を受けているのもったいない。近隣市の方が水道代が高く（実際は、富津市が高い）、補助もあまりない。富津市の環境を選んできている人が増えている。それは小学校があるからである。それをなくすと人は増えない。納税者がいなくなるのは市も困る。何も努力しないで、子どもが少ないから統合しますでは、ここには人が住まなくなる。商店もなくなる、郵便局もなくなる、寺もなくなる。小学校があることが大切である。市が消滅することにもこの問題はつながっていると思う。</p>
岡根教育長	<p>3人だからできることもある。より多くの子どもの中でもそういう感動もあると思う。1,000人規模ということは全く考えていない。歩いて行ける学校があるのは理想である。ある程度の人数がいる環境も大切であると考えている。移住を推進する中で学校が大切なのは理解できる。遊ぶ時間のことは気になっている。この地域では自然にできており、大きい学校では意図的に作っている。</p>
保護者	<p>小規模校のデメリットは多くあるのか。</p>

岡根教育長	3人4人の規模や、入学してくる子どもがいないということを心配している。今ある環境をベストにしたい。
保護者	子育てしやすいまちで富津市は全国5位であった。市の方もその点をアピールした方がよい。全国の出生率を上げるのは難しい。市の出生率を上げることはできる。できることからやって、増えなければ仕方ないのでは。
今井課長	第3子以降保育料無料化や不妊治療の補助などを行っていく。
保護者	通学時間に40分かかるとはどうか。
岡根教育長	今いる子どもたちの教育環境をよくしたい。道路事情や渋滞については検討していく。
保護者	金谷は人が集まる要素がある。東京に近くフェリーもある。人が集まる可能性がある。今どんどん人が増え、その芽が育っているところでそんな大きな決断をしてもよいのか。バリ島の子どもたちが来てすぐ仲良くなれる。外国の方にも気軽によっていただくことができる。今、その芽を摘んでほしくない。
岡根教育長	2040年の人口推移では45,000人が34,000人になる予想である。人が増える可能性が見えるのなら、考えていかなければと思う。
保護者	手を打たなければ人は増えない。他市は努力をしている。第2子に補助ができればそこを見てくる人も出てくる。何もしないで統合してしまうと他市よりも減ってしまう。移住者支援、市の魅力を高めることも。
岡根教育長	子どもが増えているのは青堀小学校区であり、この地区でいえば増える要素があるのかはわからない。
保護者	しかし、小学校がなくなると人は増えない。通学時間を検討しなければいけないといっているが、学校に行けばケアをしてくれるが、それ以外の遊ぶ時間、通学時間、習い事の時間は親として心配である。子どもなりに適応していくと思うが、バスの送迎で往復50分、これは変わらないのでその辺が心配である。小学校がなくなったら人口が減るのは当たり前である。
保護者	複式学級は良いと思う。娘は3、4年生複式であった。複式だからだめではない。本人の意志が大切である。親のサポートで違ってくる。複式学級では、同級生や1つ違いの関係を体験できる。複式を体験した子どもや親に聞いてほしい。
岡根教育長	複式の教育についてだめであるといっているのではない。人数のことを問題としている。
保護者	複式の方がよいということである。
今井課長	複式を解消したい。指導のしやすさからいっても、教員にとっては効果が上がると教員は思っている。教務主任の先生は6年生の担任をやりながら、複式解消のために頑張っている。

保護者	スクールバスの時間の件があるが、歩いて通えるのが理想論である。学校で何かあったらすぐに迎えに行けないということは大きな問題である。そのことは人がこの町を選ぶのに大きな問題である。
岡根教育長	関豊小の子供達はたくさんの人と学ぶことが楽しいとっている。そこを教育委員会としては大切に進めていきたい。
保護者	日々ではなく、交流学习などで行事や集団活動を行ってもよいのではないか。
岡根教育長	日々の授業の中で体験していくことが大切であると思う。普段から経験することは大切である。
保護者	平成30年に中学校を壊すことになっているが、平成29年にこのことは決定するのか。
今井課長	小学校は平成32年に統合予定である。
保護者	今年度ですよね。
今井課長	個別計画を立てていくのは平成29年度である。天羽中の改築は老朽化によるものであり、単独のものである。
能城部長	7. 閉会の言葉